

インターネットラジオ局がつくる“読む”ラジオ

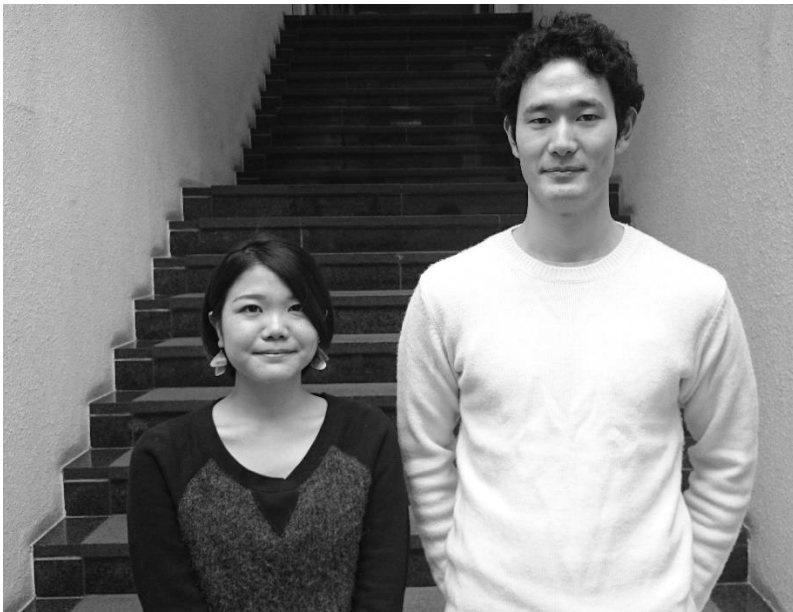
AWAPURADIO

アワプララジオ通信

2016.01

『東京ラブレター』～インタビューシリーズ～

どうすれば社会へ効率的に楽しく 影響を与えられるか考えたい



大学生

田中栄里花さん、田村聡さん

[たなかえりか、たむらさとし]

難民問題やホームレスの問題などに関心を持つ田中さん（左）は一橋大学法学部3年。田村さんはオーストラリアのクイーンズランド大学環境マネジメント学科に留学中で、収録のときは日本でのインターンシップ（職業体験）のため帰国中。二人は番組収録場所である NPO 法人 OurPlanet-TV（アワプラ）でインターン中。

ナビゲーター（インタビュアー）

あべこう一、高木祥衣（OurPlanet-TV）

—大学では何を学んでいますか。

田中 大学では国際関係のゼミに所属しています。あまり法学ばかりというわけではないのですが、国際的な政治経済について話し合っています。

田村 オーストラリアの大学で「持続可能な社会作り」を専門にしている、地球温暖化などの自然環境の問題やヒートアイランド現象などを、科学的方面や都市計画などのプランニング

などの方面、NGO、NPO などの社会的な方面などの様々な視点から多面的に見て環境のサイエンス、環境のエンジニアで解決策を見つけ、それをどのようにして社会に適応させていくかということ勉強しています。

—お二人がいま特に関心があることについて教えてください。

田中 2年ほど前から日本における難民問題に関心があります。日本にい

る難民の方と会って話をする機会があり、みなさんがどのようなことで困っているのかを聞いていくうちに弁護士の役割の大きさを感じ、法学部なので自分の学んでいることと結びつけられると考えています。

印象に残っているのは、ミャンマーからの難民の方で、高田馬場（東京）でミャンマー料理レストランをしている人のお話です。その方にはお子さ

んがいるのですが、両親共に難民なのでミャンマー国籍もなく日本国籍もない無国籍の状況です。その子は日本で生まれ日本の小学校に通っているのですが、アイデンティティーは日本人です。しかしご両親はやはり自分の祖国はミャンマーだと考えていますので、いつかは帰りたいという気持ちもありますが、子どものために日本に残るべきかととても悩んでいらっしゃいました。私たちが普段日本で生活している中でそういった問題に出会うことはないの、国籍問題について考えるきっかけになりました。

田村 私が勉強している環境問題には様々なアプローチ方法がありますが、その一つに社会活動が挙げられます。これまで NGO、NPO、ボランティアなどの社会活動に取り組んできましたが、最近日本に帰ってきたので日本の社会活動はどうなっているのか興味があり、(気候変動問題に取り組む国際環境 NGO の) 350.org Japan さんや気候ネットワークさんと一緒に活動をしています。

正直言って、日本の社会活動は全然ダメですね。理解されていないわけではないのですが、理解していても行動に移さない人、明らかにダメなことなのに立ち上がらない人が多いです。日本は多くの方が大学まで行って勉強をしているので環境問題についての知識はありますが、その先どうやっていくのかをイメージすることが出来ていないように感じます。

たとえばドイツでは、日本で原発事故が起きたときに反原発運動が起き、

実際原発ゼロになりましたが、当の日本では政府に対する反発力も弱く、大半の反対運動が日々の疲れや他の面白い事のために無くなってしまいました。私が暮らしていたオーストラリアでは NGO、NPO、環境団体に活動していると言うと「おまえすごいな」というような、社会全体で受け入れている空気がありますが、日本だと少し下に見られるような、「おまえ何やってるんだ」という目で見られますし、街角で団体活動をしていると「やかましい」「じゃまだからどいてくれ」と思われてしまうので、とても残念です。

—アワプラでのインターンで印象に残っていることは何でしょうか。

田中 このインターン中で一番驚いたのはホームレス問題です。今まで町中でホームレスを見たことはもちろんありましたが、向き合ったことはなかった。ホームレスの方の集会に参加させて頂く機会がありましたが、みなさん優しくて良い方で、路上にいながら何でも出来ることを知りましたし、それを見る他の方の冷たい目を感じることもできました。この体験を生かして自分も何かの力になりたいと思いました。

田村 夫婦別姓問題で1時間の動画を10分にまとめる作業をした際に、編集のやり方次第で事実はどうにも変えられることに気付いて、メディアの恐ろしさを体感しました。

—2015年で記憶に残ったニュースは何ですか。

田中 やはりパリで起きたテロ事件です。とても衝撃的でしたし、たまた

まこのとき友達がパリに旅行していたというのあって、気になったニュースの一つでした。ただ、このときに大学の先輩が「アラブではこのようなテロが毎日起こっているのに、パリで起こったことだけにみんなが関心を持つのは短絡的で不公平だ」と言っていたことが、とても心に残っています。私も中東の国々で起きていることにはほとんど関心がなかったので自分が偏っていることを自覚しましたし、これを機に広い視野で世界を見ようと思いました。

—今後はどういう道をめざしますか。

田村 やっぱり今後も環境問題に取り組んで行きたいので、どのようにすれば効率的に楽しく影響を与えられるかを考えていきたいです。この間までは環境省に入ろうかなとも考えていましたが、確かに影響力はありそうですが楽しさが足りない気がして、ちょっと自分がめざしていることと違うかなと感じました。どのような形でもいいので、楽しく環境を良くしていく仕事をしたいです。あとは、好きな人を見つけない！

田中 将来の夢は弁護士なのですが、それだけに終わらず難民キャンプや難民の帰還に関わりたいと考えています。あとは旅行が好きなので、色々な国に行ってたくさんの人と出会いたいです。

最近ダイビングのライセンスを取ったので、とにかく潜りたいです！

田村 じゃあぜひオーストラリアへ(笑)！

(まとめ：井上舞香)



東京ラブレター

東京ラブレター

毎週木曜日 (内容は月替わり) 夜 9:00~9:30

●1月のオンエア『東北応援行商ライブを語る (仮)』

音楽デュオ『相模の風 THE めをと』さんに聞く

神戸市長田区のコミュニティFM局『FMわいわい』(77.8MHz)の番組『東京ラブレター』の制作を、アワプララジオは手がけています。東京ラブレターは、首都圏で活動するNPOやNGO、市民グループや個人の方を紹介する番組です。

【パソコンで聴く】「サイマルラジオ」にアクセス。「近畿」→「FMわいわい」を選択。※Macの方はWindows Media Playerをダウンロードしてください。

【スマートフォンやipadで聴く】サイマルラジオに対応したアプリ「TuneIn Radio」をダウンロード。(検索窓で「FMYY」)。

●ナビゲーター：あべこう一、高木祥衣 (OurPlanet-TV)



その昔、タレントの志村けんさんの番組で志村さん扮する厳格な父親の態度に耐えかねた娘（松本典子さん）が家出を企て、それを知った父親が「家を出る？ 言いたいことがあるなら言え！」などと言いながら、いざ娘が見しようとするときさかすか「口答えするな！」と突き飛ばすなどして話を聞こうとしないということを延々と繰り返す内容のコントがありました。お笑いですからそのズレや矛盾が肝であって、志村さんファンの私はそのコミカルなやり取りを見てお腹を抱えて笑ったものです。

最後のオチは仲裁に入った母親（いしのようこさん）も夫に暴力を振るわれて、娘と一緒に「お父さんのその暴力が嫌なのよ！」と泣きながら家を飛び出し、一人残された父親が「俺がいつ暴力を振るったというんだ、ええ?!」などと暴れているというようなものだったと思います。お笑い番組におけるコントの中の話ですが、これと似たようなことは日常に結構あります。

一方で自分の意見を持ち主張できる人になりなさいと推奨されながら、それを実行していると空気を読めないなどと言われて排除の対象とされる。また、失敗を恐れず果敢に挑戦しなさいなどとされながら、今の日本社会は構造的にも“既存のルール”などと不特定多数が何となく考えているところから一度でも外れた者には厳しい社会です。それらの同調圧力は、言いたいことを言えと言っておきながら娘の言葉に耳をふさいで暴力を振るう父親の姿と似ています。

2015年は権力にひれ伏すかのように、現政権の姿勢に反していると思われる個人や団体に対し、自治体や教育機関などが会場の貸し出しや展示、出版物への掲載を拒否したり、書店が自分の考え方と違うフェアを開催していることに対して、偏向しているなどとクレームを付けたりすることが中立的であるというようなおかしな風潮が目立ちました。

例えば総理大臣から大っぴらにそうしなさいという指示でもあったのでしょうか。あるのかもわからない同調圧力に屈して、思考停止しているうちにみんな腰まで泥まみれ。戦争も辞さない息苦しい社会を生み出すのはいつも、上からの強制ではなく市民社会の中での自主規制や相互監視です。（あべこう一／本紙編集長、Singer songwriter、Radio personality）

Awa Report 新しい執筆者からの自己紹介



青柳家の“あんこちゃん”です!!

初めまして。今月号から Awa Report を担当させて頂くことになりました青柳蓉子（あおやぎようこ）と申します。こういった場で記事を書かせて頂くのは初めてなので、少し書きながら緊張しているのですが（笑）、徐々にこのアワプラジオ通信に携わることが自分の一部になっていけたらと考えております。

初回なので自己紹介をしたいと思います。私は大学時代から編集の仕事、ライターの仕事にとっても興味があったのですが、20代後半の今に至るまで中々そのチャンスが掴めずにいました。やたらと物事を深く考える人間ですが、私一人が社会問題について考えてもなあと若干悲観的になることもありましたが、そんなわけでこのようなチャンスを頂けて嬉しく思っております。

私は猫が好きで、5歳になるスコティッシュフォールドの女の子の猫を一匹飼っています。名前はいんこちゃんです。ペットショップで20万円の値段が、毛色あまり美しくないせいか日にちが経つにつれ安くなり、ある日見たら5万円になっていました。売れ残ったら保健所に連れて行かれるといった話も聞いたことがあり、思わず衝動的に購入した覚えがあります。毛色は黒色をベースにして茶色やベージュが混じっていたりしますが、毛並みはとても艶やかで、ふわふわで、

家に帰ると玄関までお出迎えしてくれ癒されています。もしかして私が飼う事を決めなかったら今生きていないかもしれないと思うとゾッとします。また、買われなかった子たちは…と考えると恐ろしく思ったりもします。

大きな社会問題という私たち一般人にはあまり関わりない感じもしますが、実はこんなちょっとしたところに大きな問題が潜んでいるかもしれません。次回以降は気になる人にインタビューしたり、担当のページを交換したり、紙面に関わる仲間と話し合いながら色々試していけたらと考えています。どうぞよろしくお願い致します。（青柳蓉子）

『GREEN BOOKS』～本の紹介～

東京すみっこごはん (2015年8月) 成田名璃子 著 光文社文庫・670円



「すみっこごはん」は主の居ない古ぼけた一軒家にある。「素人がつくるので、まずいときもあります」と但し書きがされた看板を掲げるこの場所はレストラン、ではなく共同台所。その日集まった人たちでくじを引き、当たった人が夕食をつくりそれをみんなで食べるというなんとも趣の変わった場所である。

年齢も職業も国籍も違う人たちがひとつのテーブルを囲んで食事をする、ただそれだけ。イジメに悩む女子高生、結婚したいOL、日本に馴染めないタイ人留学生。それぞれが様々な事情を抱えながら、台所に立つ。だが必死で出汁をとり、肉をこね、野菜を切るうちに心はどんどん解きほぐされてゆく。

また食事の描写がいい。ほんわりと湯気の立つ味噌汁、とろりと溶け出すクリームコロッケ、艶々ふっくらもちもちの白いご飯。読み進めるうちにお腹が空いてしまう。

すみっこごはんの秘密はやがて明かされるのだが、そこにはたっぷりの愛情とほんの少しの切なさが詰まっていて、まるで温かいお味噌汁をいただいたようにじんわりと心に沁みる。

食べることは生きること。ふっと大切な人の顔が浮かんでくる一冊である。(浅香友里)

オンノジ (2013年5月) 施川ユウキ 著 秋田書店・597円



ヤングチャンピオンに連載されていた4コマ漫画。ある日突然、街から人がいなくなり、1人きりになった少女が、男子中学生の意識を持つ謎のフラミンゴと出会い、繰り広げる日常を描く。設定はSF調だが、生活における発見から生まれたささやかな言葉遊びや、そこから広がるシュールなイメージを扱った笑いが多い。

少女とフラミンゴは無人の街をうろつき、山へ行き、色々な所に行き、色々やってみるのだが、何をしていても果てしなく平和で、スケールの大きさを感じない。深そうな事を言うけどくだらなくて、でもどこか心に引っかかるようなこの雰囲気は、読後に物事のとらえ方を微妙に変えてしまいそうであった。

しかし、何はなくともギャグ漫画に求めるものはやはり「笑えるかどうか」だ。この漫画は、一冊まんべんなく笑えた。発想のずらし方や、着眼点に感心しながらも、やはり感覚的なところでフツと笑わせてくる。4コマ漫画の作者に時々思うことだが、人の思考の動きのいじらしさを切り出すのが、本当に上手だと思う。面白いネタの具体例をずっと探していたが、うまく説明できず歯がゆいばかりだ。

同じ作者の「バーナード嬢曰く」という読書をテーマにした4コマ漫画もおすすめだ。(大森周子)

告知ボード

●あべこー最新情報

2016.1.31 (日) 下北沢 LOFT (東京) 18:30 OPEN/19:00 START

『オロオロしてたら40年 あべこー&minako Birth Day Concert〜あべこー宅地建物取引士試験合格記念〜』

会場：下北沢 LOFT (小田急線・京王井の頭線『下北沢駅』南口5分)

ゲスト：宮内華子 (落語・朗読)

ラビっちゅ mico (ピアノ弾き語り)

※その他、詳細は調整中。

多くの方に支えられてあべこーとエモーションアーティスト minako はこのたび40歳の誕生日を迎えます。また、あべは先日、宅地建物取引士 (宅建士) の資格試験を受験。初めての挑戦で合格を勝ち取ることができました。それらを記念しておなじみのライブハウス『下北沢 LOFT』 (東京) で、ライブイベントを開催します。

あべこー公式ブログ <http://ameblo.jp/kohichi-abe/>

あべこースペシャルサイト <http://k-abe.jimdo.com/>

最新号は千代田区社会福祉協議会 (東京) の中にあるちよだボランティアセンターに置かせていただいています。また、アワプラジオやあべこーがかかわるイベント等でも配布しています。バックナンバーがウェブサイト上でダウンロードできます。

置き場を提供してくださる方も随時募集しています。発送を希望される方もお気軽にご連絡ください。

<アワプラジオとは>

NPO法人 OurPlanet-TV で出会った仲間と、2009年に開局したミニFM、インターネットラジオ局です。名称は OurPlanet-TV の略称であるアワプラにちなんでいます (アワプラとは別々の団体です)。

編集長：阿部浩一

発行：アワプラジオクリエイティブ

107-0052 東京都港区赤坂3-21-5 三銀ビル3F サポートコール内

awapuradio@gmail.com

TEL: 03-6856-0722 FAX: 03-6856-0723

<http://awapuradio.com/>